



埋もれる希望に気づいたら

神奈川県立外語短期大学付属高等学校2年

ひらた ゆい
平田 優衣さん

世界の中での日本は、頭が良く裕福で、発展した、まさに住むには理想的な国だと言えます。学校や公共施設はよく整備されており、教育を受けることが当たり前であるのです。そうして学んでいったこどもたちがやがて大人になり、得た知識をもとに新たなシステムや技術を開発していくのです。人々の生活は常に便利なように進化し続けていることは明確です。しかし同時に、住みやすさや自分たちの利益を重要視するあまり、大きな問題を引き起こしているとも考えられます。そして多くの人は目の前の幸せにその事実を紛れ込ませがちで、気づかないのです。私は12歳から16歳までの約5年間をタイという東南アジアの国で暮らしました。日本とはまるで異なる未だ発展途上の国で見てきた様々な苦労や助け合いは、日本での暮らしがいかに良いかということとそれが多くの問題につながっているということを私に教えてくれました。一つの国として発達した日本が今すべきことは、自国だけで満足するのではなく、他国のことを考えてあげることだと私は思います。中でも着目すべきなのは、ごみの問題です。

日本は豊かな国です。豊か過ぎる国です。見た目や便利さを大切にしたい新しい製品が次々と作られていて、それらは簡単に手に入ってしまう。それに伴い、「ものを長く使い込む」ことを忘れる傾向にあるように思えます。例えば雨の日には欠かすことのできない、傘です。梅雨の期間に違う傘を何本使いましたか？ もちろん、1本だけという人もいますでしょう。し

かし中には複数本、あるいは十数本という人もいるのではないのでしょうか。その傘のほとんどが透明のビニール傘なのです。ビニール傘というのは、コンビニやスーパーで100円という安値で気軽に手に入れることができます。それが問題の原因なのです。「どこでも手に入る」という考えは、「雨が降るらしいけど面倒だし持っていかなくてもいい」という思いにつながります。家に傘があるのにもかかわらず、わずらわしさから持ち運ぶことをしないのです。100円で手に入れたビニール傘には、何も思い入れもなく愛着もわかず、ただそれを「濡れない」為に使うだけです。だからこそ簡単に電車に忘れてきてしまったり、駅に着いて雨が止んでいるのを見ると立て掛けて置いてしまったりするのです。たった100円の値段です。この国に住んでいる人にしたなら、たいしたことはないのでしょうか。そんな事実をタイを含む発展途上国の人たちが知ったらと思うと胸が痛みます。タイには一生懸命働いて稼いだお金をファッションやお出かけなどの娯楽に当てることのできる余裕のある人ばかりがいるわけではありません。「その日生きる」為、すなわち「食べる」為に使うのは珍しくないのです。1回きりしか使われなかった傘はどうなるのですか？ 他人が拾い、使うという可能性もありますが、大部分は放置されたままになるか処分されるでしょう。どうして一つの傘を大事に扱い続けることができないのでしょうか。これは廃棄物を増やす原因の一つです。日本人は、せっかく良いものを作る技術を手にしている

のだから、もっと一つ一つのことを大切にしていくなさるべきです。傘以外の他のものも、安易に買い換えたりせず、長く使い続け、ごみを減らしていく努力をしなければならぬのです。

今大きく取り上げられている問題の一つである、買い物の際に使われる袋についても改善策が必要だと思ひます。現在、買い物袋を減らす運動が各地で見られるようになりました。布製のトートバッグを販売したり、レジ袋を断った際にポイントを集められるようにしたりするなどして、人々に働き掛けているのです。レジ袋を有料化した地域もあります。それは環境を守るためにとてもいいことだと思ひます。しかし、そういった努力をする一方で、無駄も多く見られると思ひます。例えば、スーパーなどで生理用品を買ったとします。それを店員はどうやって客に渡すでしょう。中身が見えないように紙の袋に入れ、さらに、他のものと一緒にならないよう、個別の小さい大きさのビニール袋に入れるところもあります。そこまでする必要があるのでしょうか。そうは思ひません。タイでは、そういった類の商品も他のものも、全て一緒に入れていました。それはいき過ぎかもしれませんが、紙袋に入れるよりはずっと良く思ひます。そもそも、なぜそこまでしなければならないのでしょうか。生理用品を買うことを恥ずかしく思ひますか？ そういった商品が見えることがいけないことだと思ひますか？ まずその考えを変えるべきです。そのまま、食料品以外のものと一緒に入れてしまえば、紙の使用量を減らすことができます。

日本は世界でも最も発展した技術を持つ国です。新たな製品が次々と誕生し、人々の暮らしをどんどん

良いものにしていっています。しかし、こんな不自由の少ない国でも、人々の「楽さ」への要望は尽きることはありません。それでも私たちは、世界中の環境のことを考えなくてはならない時代に住んでいるのです。その為には、一人一人が心がけていなくてはなりません。どんな小さく見えるものでも、大きな変化を生み出せます。自分の買うものを大事に長く使い、買い物袋を持ち運び、無駄を減らしていきましょう。それぞれが意識を変えていけば、私たち自身の住むこの地球を守っていけると思ひます。